

134. 「木造毘沙門天立像邪鬼」保存修復事業

川村 容生

<修復前>



正面



背面



左



右

毘沙門天立像 邪鬼

総 高 37.0cm、
全 長 67.0cm、
最大奥 47.5cm

青森県

解説

本像は斗賀霊現堂に伝来した毘沙門天立像を構成する邪鬼で、製作年代は鎌倉時代前半と推定される。毘沙門天は不動明王立像とともに、十一面観音立像の脇侍であったと考えられる。本来は毘沙門天本体に踏みつけられる形で台座として機能していたと思われるが、虫食いによる損傷と腐朽が進行し、多くの部材が脱落してしまっていた。修復の実施により、本像の技術的な点の調査・検討を行うことができ、北東北における仏像製作の歴史を知ることができ、学術的にも大きな成果があった。

<修復後>



正面



背面



左



右

修復業者

株式会社明古堂

修復内容

本像は全体に虫食いによる損傷と腐朽が進行しており、多数の脱落部位がある状態であった。乾式クリーニングにより汚れと虫糞を除去したうえで、低酸素濃度処理による殺虫燻蒸を行った。虫穴・腐朽部位には人口木材を充填して補強している。欠落部位の中で構造上必要な部位は木曽ヒノキ材で新補している。脱落部位は適正な位置で接合したうえで、接合部分の矧目を砥粉下地で補修し、周囲に合わせて補彩した。修復に合わせて毘沙門天立像本体とは別に専用の台座を作成し、その上に邪鬼を安置して保管している。

毘沙門天邪鬼 一軀

修理報告書

青森県三戸郡南部町大字斗賀上斗賀九 川村容生

株式会社 明古堂

名称

毘沙門天邪鬼 木造 一軀
青森県三戸郡南部町大字斗賀上斗賀九 川村容生

法量 (cm)

本体

総高 三七・〇 全長 六七・〇
最大奥 四七・五

台座

框幅 八一・八 框奥 八一・八
框厚 七・六

形状

顔を右斜上方へ向け右腕は肘を突いて右顎を支え、左手は斜右側へ張り、左膝を屈し、体を右方へ向け臥す。

品質構造

本体 広葉樹。割矧ぎ造り。彩色。
頭体幹部は一材製（木芯は右顎から臀部に籠める）。左腕は肘で矧ぎ、左脚部は膝で別材を矧ぐ。表面は漆下地、白色下地、彩色。

保存状態

本体

虫喰いによる損傷と腐朽は全域にわたり進行する。面部、顎部、頸部から左肩にかけて、左肘以下、左腰部、以上は脱落していた。左手首先、右脚部は亡失する。左右側頭部、右腕の大半、背面中央部など欠失部位を多数認める。

修理仕様

- ① 乾式クリーニングし、汚れおよび虫糞を除去した。
- ② 低酸素濃度処理による殺虫燻蒸を10週間おこなった。
- ③ 虫穴・腐朽部位にパラロイドを段階的に含浸した。彫刻面へしみ出ないよう慎重に行なった。

- ④ 虫穴・腐朽部位へ人工木材を充填し補強した。人工木材は粉状ホオノキ材（展着材はパラロイド）と無機物（展着材はエポキシ樹脂）の二種類を使用した。虫穴は直径2 mm以上、損傷部位は引つかかる恐れのあるところのみに留め、塑形は行わなかった。
- ⑤ 構造にかかわる矧目などの欠失部位を木曽檜材で新補した。
- ⑥ 脱落していた部材を適正な位置で接合した。人工木材を使用した。
- ⑦ 接合した矧目は砥粉下地で補修し周囲にあわせて補彩した。
- ⑧ 方形台を新補した。木曽檜材製、端喰造り、隅脚付き。

使用材料

- 「ラテックスゴム：Wall master」
「木材：木曽産ヒノキ。ホオノキ」
「人工木材：アクソソージャパン株式会社S222・セメダイン株式会社HC-118・ロニシ株式会社EセットL」
「パラロイド：ROHM and HAAS Company Paraloid B72」
「アクリル絵具：Liquitex ACRYLIC・ターナー色彩株式会社 ACRYL GOUACHE」



処置前 内部



含浸作業



クリーニング、含浸



仮組



保存修理後



保存修理前



保存修理後



保存修理前



保存修理後



保存修理前



保存修理後



保存修理前



保存修理後



修理前の安置状況（須藤氏撮影）

施工者及び施工場所

株式会社明古堂 明珍素也

東京都世田谷区豪徳寺二―九―一二

令和七年三月

